

保健福祉学部 助産学専攻科 在学生の声



助産学専攻科 14期生

助産学専攻科14期生みなさんにインタビューしました！
助産学専攻科の学生のリアルな声をお届けします♪

Q なぜ、県立広島大学の助産学専攻科に入学しましたか？

<県大看護出身者>

本学の看護学科で学んできて、助産学専攻科を身近に感じていました。看護学生の時に助産学生の先輩たちから話を聞いていくなかで、主体性をもって学修できることを一番魅力に感じました。授業の内容を詳しく聞いていて、本学では、助産師になるための力・技術を身につけることができると思いました。また、私は実家から大学に通えるところに住んでいるので、家族の力を借りながら、助産師になれるように頑張れると思い、本学を選びました。

<県大以外の出身者>

私の地元は広島県内です。元々、助産学専攻科の1年はハードな1年になると聞いていましたので、少しでも家族の支えがある中で勉学に集中したいと思いました。また、本学では、学生の主体性を大事にしており、今まで自分がやって来たことを活かすことができると思いました。助産師として必要な思考力や行動力をさらに発展させることができると思い、この大学を選びました。

Q 学生生活はどうか？

<新卒学生>

一言で言うと、助産学専攻科野学生生活は忙しいです。朝から夕方まで授業があり、放課後には、娩介助の練習や思春期の性教育やマタニティ教室に向けたグループワークをして過ごしています。日々忙しいですが、限りのある時間の中で、学生みんなで集まって取り組むことばかりなので、限りのある時間の中で、みんなでリフレッシュをしながら、とても楽しく生活しています。

出会って2ヶ月ですが、いつも楽しく笑いながら楽しく授業を受けています。2か月とは思えないくらい仲良くなれて、おもしろい仲間たちばかりです。みんなと一緒に、分娩介助の練習や日々の授業の中でグループワークに取り組み、楽しく勉強しています。

<ママさん学生>

子育て中ということもあり、家庭と学業の両立は大変です。平日は忙しく、料理ができない時があるので、できるだけ日曜日に作りおきをしたり、時にはお弁当を使ったりしています。両立していく上で、家族の協力は欠かせません。夫が在宅での仕事を増やしてくれたり、義両親に家事や育児を手伝ってもらったりすることで、両立した生活を送ることができています。

Q 大学に入って成長したことは？

自分で計画的に課題を進めていくことです。助産学専攻科では、課題が多い日々が続くので、事前に「〇日には課題を終わらせる」など、日にちを決めて課題を行う習慣が身につきました。

本学の専攻科では、グループワークなどの主体的な授業が多いので、クラス全員で話し合う機会が多いです。入学してから、みんなの意見を聞き、自分の意見を発信することができるようになり、成長できていると感じています。

<看護師経験のある学生>

入学して学んでいく中で、自分自身が臨床にいる時は、ルーチン化されたものを業務的に行ってたことが多かったことに気づきました。演習（シミュレーション学修）を通して、対象者一人一人の声を聞いて、対象者のニーズに合わせた対応をすることの大切さを深く学ぶことができていると思います。それが今後どのような道に行っても活かしていくことができると思っています。

Q 受験勉強はどのようにしましたか？

<新卒学生>

私の勉強方法は、インプットとアウトプットを繰り返して学修していきました。インプットとしては、看護師国家試験のQBや助産師の国家試験問題を使って勉強しました。アウトプットとしては、本学の過去の入試問題を解いて、分らなかった部分や知識として足りない部分を確認していきました。

<看護師経験のある学生>

看護師として働きながら、受験勉強をする時間を確保するのは難しかったので、病棟の先輩や同僚に協力をしてもらって、夜勤のフリーの時間を勉強する時間にさせてもらうことができました。その時の勉強方法は、参考書を読んで勉強しました。

Q 受験生に向けてのメッセージ

受験が近づいてドキドキしている時期だと思いますが、今やっている勉強は、専攻科に入学してから必ず活かされることばかりです。自分を信じて、息抜きもしながら、受験に向けて頑張ってください。応援しています。

勉強することは大変だと思いますが、助産学専攻科と一緒に助産師になるための勉強を頑張りましょう。みなさんが入学してくることを待っています。